

本陣跡

宗興寺から東へ進むと滝の川に出ます。

この川沿いを海側へ行くと第一京浜に突きあたります。この付近より東京寄りには、旧東海道が拡幅され第一京浜となっています。その上には現在、高速道路が走っています。

宿場町時代には、滝の川を挟んで江戸側に神奈川(石井)本陣、その反対側に青木(鈴木)本陣が置かれていました。

本陣というのは、大名や公家などが宿泊や休息をする幕府公認の宿です。

『神奈川本陣については、『金川砂子』や

滝の川と河童

滝の川は、権現山から流れ出る水が、滝となって落ちていたので、滝の川といわれるようになったとの説があります。この川には、「河童のくれたさげこうべ」という伝説があります。

昔々、滝の川には河童が住んでいました。旅人を困らせていると聞いた一人の侍が、見事にこの河童を捕まえました。

その河童が泣き泣きいうことには、……「ある年一匹のうわばみが現われて、亭主は殺されてしまいました。それからというものは、二人の子どもを養うために悪いことは知りながら、つい

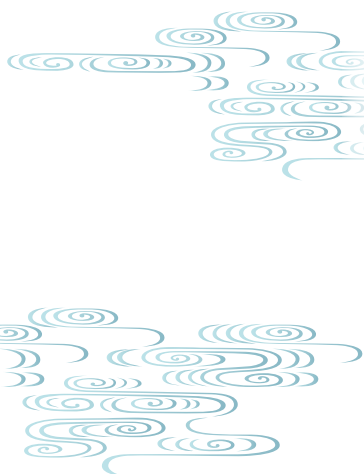
本陣を勤めた石井家に伝わる資料があり、その外観や間取りなどを知ることができます。



『金川砂子附神奈川史要 神奈川御本陣』名著出版

ついでに迷惑をかけました。以後いっさい悪いことはいたしません。約束のしるしに、大事な亭主の首をさしあげます。どうぞお許しください……」

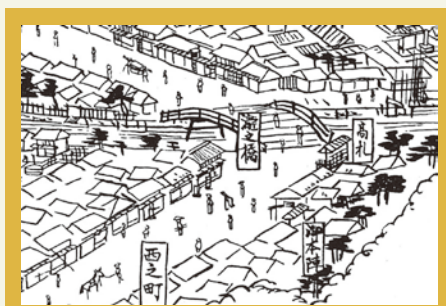
哀れに思った侍は許してやりました。その夜、河童は約束通り首を届け、以後宿場は静かになったそうです。



高札場

左図の『金川砂子』には、滝ノ橋のたもとに、高札場が描かれています。

高札場は、幕府の法度や掟などを庶民



『金川砂子附神奈川史要 滝ノ橋権現山』名著出版



に徹底させるために設けられた施設です。

宿場の施設としては重要なものでしたが、明治に入り情報伝達の手段が整うにつれて、やがて姿を消してしまいました。

当時の高札場は、神奈川県警察署西側付近にありました。上の写真は、資料をもとに神奈川地区センターの前に復原したものです。その規模はおおよそ、間口五メートル、高さ三・五メートル、奥行一・五メートルと大きなものでした。

浄瀧寺

下の写真は、滝の川のほとりにある浄瀧寺です。

開港時にはイギリス領事館に充てられました。本堂を始めとして諸所にペンキが塗られたといわれています。

横浜大空襲で焼失してしまいましたが、当時、イギリス領事が手植した「多行松」と呼ばれる松があり、横浜十名木とされています。

